

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・1月号・付録
2019年1月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

放懇セミナー盛況終了

—11月理事会報告—

2018年11月29日、11月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 事務局

・1月号特集は「第56回上期ギャラクシー賞」。放送改革シリーズ第2弾も掲載する。表紙は竹内涼真さん。

・2月号特集は「テレビ報道とSNS」。テレビ報道、とくに災害時におけるSNS活用の現況を探る。表紙は清野菜名さん。ザ・パisonは石戸奈々子さん。

・3月号は女性アナウンサーを特集予定。表紙は安田顕さん。ザ・パisonは信友直子さん。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉 出田委員長

・10月24日に月評会を開催した。月間賞には「かたせ梨乃が進駐軍

の前で踊り狂った時代：とマツコ」(日本テレビ)、スーパープレミアムスペシャルドラマ「マリオAIのゆくえ」(NHK)、NNドキュメント'18「我、生還す―神となった死刑囚・袴田巖の52年―」(中京テレビ)、土曜ドラマ「フェイクニュース」(NHK)の4本を選んだ。

・10月30日にギャラクシー賞上期の選考会を開催し、7本の入賞作品を決定した。ドキュメンタリー5本、ドラマ1本、バラエティ1本を選出した。(詳細は「GALAC」1月号に掲載しているので省略する。他委員会も同様。)

〈ラジオ部門〉 五井委員長

・11月9日に定例会を開催し「経済番組」をテーマに、「村上信五くん」と経済クン」(文化放送)、「日

本一明るい経済電波新聞」(毎日放送)、「落語千金」(お金を学ぶ落語の時間) (TOKYO FM)、「北野誠のトコトン投資やりませ。」(ラジオNIKKI)を聴取し議論を交わした。

・10月19日と23日にギャラクシー賞上期の選考会を開催し、入賞候補作品を決定した。

〈CM部門〉 服部委員長

・11月20日に定例会を開催し、31作品のCMを視聴した。日清カップヌードル「フランダーズの漢篇」やソフトバンク「NOMOREギガ泥棒篇」が議論を呼んだ。大塚製薬のオロナミンCとカロリイメイトのCMには好意的な評価が集まった。

・10月29日にギャラクシー賞上期の選考会を開催し、入賞候補作品を決定した。

・11月10日に上智大学にて「ギャラクシー賞CM入賞作品を見る・聴く会」を開催した。参加者は49名で、盛況のうちに終了した。

〈報道活動部門〉 丹羽委員長

・定例の報告は特になし。
・10月31日にギャラクシー賞上期

ホームビデオ記念日

情報メディア研究所所長 八川敏昭

10月29日、街頭ビジョンを見上げると、「今日は何の日？」という文字が現われ、それに続いて「ホームビデオ記念日」という文字が流された。そのあとの説明によると、1969年10月29日にソニーと松下電器が同時に家庭用ビデオテープレコーダーⅡホームビデオ（VTR）を発表したのがその由来だ、ということだった。

だが、当時発売されたVTRは「ドカベンカセット」などと揶揄されるほど形状が大きく、また高価であったため、実際にホームビデオが一般家庭に普及するのは、1975年のソニーによるベータマックス規格VTR発売と1976年の日本ビクターによるVHS規格VTR発売以後すこし経ってからのことであった。

ところで、私が志賀信夫と青木貞伸という放送批評の二人の先達の推薦で放送批評懇談会（放懇）に入会したのは1971〜72年ごろだったが、入会するとすぐに私は放懇から

正会員コラム

いろいろな番組批評を求められることになった。そのあるものは、私が私見によって選択した番組批評であり、あるものは当時の「放送批評」誌の指定した番組批評であり、またあるものは放懇のコンサルティング事業の一環として電通などから指定された番組のモニタリングであったりした。

番組批評を書くにあたり、当時私が直面した最大の問題は、これらの番組批評のうち、放懇や電通などが指定したテレビ番組批評であった。というのも、先述のように、私が放懇に入会した当時はまだ実用的な家庭用ホームビデオというものは発売されていなかった。しかしそうはいっても、指定された番組をリアルタイムで視聴しないことには仕事にならない。

当時、わたしは組織の一員として仕事をしていたが、幸いなことに、仕事場の席がコンパートメント状に仕切られていたので、自分の机にこっそりとポータブルテレビを持ち込み、同僚から見つからないようにアンテナ（ロッドアンテナ）をできるだけ短く立てて、ひそかに指定され

正会員コラム

たテレビ番組を視聴して番組批評を書くことができた。

つまり、このように、当時テレビ番組批評を書く者は、今のように自宅のテレビレコーダーで録画した番組を、自分の都合のよい時に自由に視聴するというのではなく、リアルタイムでテレビを視聴できる者に限られる、という条件が必要とされたのである。逆に言えば、だからこそ当時、このような条件をクリアした志賀信夫や青木貞伸のような独立したプロの放送評論家が出現した、ともいえるのである。

ちなみに志賀信夫には、さすがプロの放送評論家らしく、自宅の一室に多数のテレビを設置し、同時に複数の番組を視聴していた、という伝説が残されている。



ギャラクシー賞データベース

<http://www.houkon.jp/galaxy/database.html>

1963年度に
スタートしたギャラクシー賞。
顕彰した優秀番組・作品、個人はすでに4300件に及びます。
ギャラクシー賞データベースは、
その全記録を掲載！あなたの
ギャラクシー賞の“知りたい”に答えます！

ギャラクシー賞 データベース

検索

テレビ、ラジオを知りたい方。過去の番組をお探しの方。
優秀番組と出合いたい方。ぜひ、ご活用ください！

(掲載内容：作品名、放送局・制作会社名、制作者、出演者、受賞理由など)